

# 第4学年「総合的な学習」活動案

平成12年11月21日(火)第5校時

活動場所 高学年図書室、4の1教室、4の2

教室

学習者 男子 54名、女子 37名 計91

名

授業者 水野優一 杉江純子 関満代

1 単元名 「みんな聞いてよ、三ヶ島自まん」

2 単元について

## (1) 地域や学校の実態

本校は、埼玉県南西部にある所沢市の最西部に位置し、東京都や入間市と接している。歴史は古く、明治時代に学制がしかれたときの開校であり、平成14年には、開校100周年を迎える。校舎の一部は昭和30年の建設であり、そこには、手すりが石でできた階段が残っていて、石階段として、児童にも親しまれている。また、所沢市内で1校だけ、青い目の人形が残っていることでも知られている。

本校の学区は、緑豊かな地域であり、学校のまわりには茶畑や野菜畑、林などが広がっている。狭山湖や早稲田大学周辺の湿地や森には、湿地特有の植物や、野鳥、昆虫などが多く生息していて、生き物ふれあいの里のコースになっている。また、ぶどう畑もあり、シーズンには、観光客がぶどう狩りを楽しんでいる。

地域の歴史も古く、砂川遺跡など石碑や史跡が数多く残っている。神社や寺院も多く、児童の遊び場になったり、お祭りが行われたりしている。

また、三ヶ島はわき水の多いところで、所沢市内を流れる東川や、砂川堀の源流も見つかっていて、最近でも虫を見たという情報が寄せられている。

最近、国道463号バイパスが校区を通り、道路沿いに飲食店や大型店などができてきた。こあふる(身障者施設)・ケアハウス・早稲田大学・芸術高校などの施設も新しくできている。

## (2) 児童の実態

本学年の児童は、明るく素直である。活発な児童も多いが、全体的に、発表力や自分を表現する力がやや弱く、自分の考えをはっきり言ったり、質問に対して的確に答えたりすることを苦手に行っている児童も見られる。言われたことはきちんとやろうとするよさがある反面、主体的に学習に取り組む姿勢は、今一步のところが見られる。

生活の様子を見ると、自然がまだまだ残っている地域に住んでいるためか、男女を問わず、自然によく親しんでいる。登校途中にクワガタをつかまえてきて、自慢げに見せ合う姿もよく見られる。学区が広いからか、低学年のうちは家の近くで遊ぶことが多いようだが、4年生になってからは、自転車に乗って友達の家を訪れることも多くなっており、今まで知らなかった地域を発見することもあるようだ。

本学年では、祖父母の代から三ヶ島に住んでいる児童が約60%おり、三ヶ島という地域に愛着をもっている家庭も多いと考えられる。また、三世同居の児童も48%おり、身近なところに地域をよく知っている人がいると言える。

児童は、2年生の生活科の学習で、学区探検を行い、学区内にある施設やお店、神社、公園などを回っている。3年生の社会の学習では、地域学習で学区の絵地図をつくるために学区を回ったり、公民館やお茶工場の見学をしたりしてきた。また、地域に残る古いものをさがして石碑などを巡る学習もしている。このような学習を通して自分たちの住んでいる地域には、様々なものがあることを学んできている。

この学習を始めるにあたって、児童に「三ヶ島にはどんな自まん（よさ）があると思うか」とアンケートをとった。以下、その結果である。

おいしいお茶ができる・・・68%	自然が豊かである・・・52%
おいしい野菜がとれる・・・32%	学校の歴史が古い・・・3%
おいしい食べ物がある・・・5%	みんながやさしい・・・5%
静かである・・・3%	新しい施設ができている・・・5%
狭山湖がある・・・3%	有名人がいる・・・3%

複数回答であるため、たくさん考えられた児童もいたが、なかには、思いつかない児童も12%いた。当たり前のように受け止めていて、よさと気づけなかったり、あまり地域に関心をもっていないためだったりすると思われる。

### （3）単元設定の価値と構成上の配慮

本単元では、自分の住んでいる三ヶ島という地域に関心を向け、実際に歩いてみたり、すんでいる人に取材したり、もの作りをしたりする活動を通して、自分たちの地域にほかに誇れるよさがあることを知り、この地域に愛着がもてるようになることをねらいとしている。

児童は、3年生までの学習で、地域にいろいろなものがあることを学習してきている。4年生では、今までの学習で学んだもののなかからヒントをさがして、地域のよさとして自まんでできるものを見つけさせていきたい。地域の様々なものに目を向けていくことは、5、6年、中学生になって総合的な学習を進めるとき、土台になっていくのではないかと考えている。

4年生ではあるが、今年初めて総合的な学習に取り組む児童達であるため、取材の仕方、メモのとりかた、挨拶やお願いの仕方、まとめ方など、ひとつひとつ丁寧に扱っていきたいと考えている。また、校外での活動を多く取り入れて、実際に体験する時間が十分にとれるようにした。地域の専門家の方にも協力していただいて、本物から学ぶという貴重な体験をさせたいと考えている。やはり、児童は、体験のなかから、自分の課題につながる疑問や驚きなどを見つけるだろうし、体験をともなって初めて自分の課題に対する答えを実感できるだろうと考えるからである。

また、4年生の児童は、表現力や発表力がやや弱いので、自分たちの活動について発表する場面を多く取り入れた。自分たちの活動の楽しさや驚きをみんなに伝えたいという児童の意欲を引き出していきたいと考えている。

#### 4 単元の目標

##### 総括的目標

身近な地域に関心をもち、そのよさを見つけていく中で、地域の人々・社会・自然とのかわりを深め、問題解決能力や、自分のふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

##### 観点別目標

< 関心・意欲・態度 >

・自分の住んでいる三ヶ島という地域に関心をもち、そのよさを見つける活動に進んで取り組もうとする。

< 学び方・ものの考え方 >

- ・三ヶ島のよさを体験を通して見つけることができる。
- ・自分の興味関心から課題をたて、自分なりの方法で解決することができる。
- ・解決した課題を自分なりの方法で発信することができる。

< 自己の生き方 >

自分の住む三ヶ島のよさを大切にしていこうとする。

#### 5 単元の活動計画（33時間扱い）

過程	日時	活動内容	教師の支援 評価の視点	活動形態
ふ  れ	11 / 1	(1) 『三ヶ島で自まんでできること って何だろう』 【オリエンテーション】 これからの学習の見通しを持つ。 教頭先生の函館自まんを聞く。	総合的な学習の進め方を説明し、地域のよさを見つけていけるよう意識を高める。 名所や名物だけでなく、自然や身近な人のよさも話してもらおう。	学年一斉
	11 / 6	三ヶ島で自まんでできるものは何か話し合う。	函館で自慢できることをメモに取りながら、聞いているか。今までの学習や体験、生活をふりかえるよう助言する。 予め家の人に取材しておいてもいいことを話しておく。	クラスごと
る  (8)	11 / 8	(2) 『自まんでできるものを見つけに行こう』 自まんでできるものを地域に見つけに行く計画を立てる。 ・見つけたいものでグループを作る。 ・持ち物や見つけ方を話し合う。	場所によっては、服装にも気をつけさせる。 相手がある場合は、都合を電話で聞くように助言する。 探検の計画が立てられたか。	クラスごと  グループ
	11 / 13	自まんでできるものを地域に見つけに行く。(地域探検)	学校に戻る時間や、何かあったときの対処の仕方を確認し	グループ

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に住んでいる人に三ヶ島のよさを取材する。</li> <li>・湿地やふれあいの里を探検する。(植物、生き物)</li> <li>・うどん、団子、饅頭づくりの名人に作ってもらい、試食する。</li> <li>・神社のお祭りのことを聞く。(お 囃子も)</li> <li>・茶畑を見に行く。お茶を飲む。</li> <li>・ぶどう畑を見に行く。</li> <li>・東川や砂川堀を見に行く。</li> <li>・三ヶ島出身の有名人を調べる。</li> <li>・大学や高校を調べる。</li> </ul>	<p>ておく。</p> <p>教師と支援ボランティアの方とで地域を分担し、児童の安全につとめる。</p> <p>見つけたものや取材したことは、メモしておくよう助言する。</p> <p>自まんでできるものを見つけようとしているか。</p>	
?	つ	<p>(3)『みんなどんなものを見つけてきたのかな』</p> <p>見つけてきたものを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型地域マップにメモを貼る。</li> <li>・メモを読んで、感想や質問を付箋に書いて貼る。</li> </ul> <p>見つけてきたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表のグループが見つけてきたものや感想を発表する。</li> <li>・付箋の質問に答えたり、その場で質問し合ったりする。</li> </ul>	<p>見つけてきた場所が分かるようにマップを利用する。</p> <p>付箋は感想と質問と色を変えておき、名前も書かせる。</p> <p>付箋は休み時間などを利用して、自由に貼っていいと話しておく。</p> <p>代表のグループは、次の活動につながるような気付きをしているところを選ぶ。</p> <p>地域マップに貼ったメモは、選んだもの別に、予め、まとめて貼っておく。</p> <p>友達が見つけたものに関心をもっているか。</p>	<p>グループ</p> <p>個人</p> <p>学年一斉</p>

か む (7)	11 / 18  11 / 21 本時  11 / 22  11 / 24	<p>(4) 『もっと調べて、みんなに自 ま んしたいな』 課題づくりをする。 ・発表の中から自分が興味をもつ たものを選ぶ。 ・どんなことをしたいのか、イメ ージマップを使って、イメージ を広げる。 ・同じものを選んだ者で、イメ ージマップをもとに話し合い、自 分の課題をたてる。 ・同じような課題をたてた者でグ ループを作る。</p> <p>活動計画を立てる。 ・いつ、どこで、何をするか。 ・だれに聞くか。誰に教わるか。 ・どんな記録をしていくか。 ・相手の都合はどうか。 ・どんな準備が必要か。など</p>	<p>イメージマップは、調べたい ことや、やってみたいことを書 いていくようにする。 イメージが広がらない児童に は、課題の変更をしてもいい ことを助言する。 なぜその自まんを選んだのか はっきりさせ、活動がいくつか考 えられる課題を決めるようにす る。 イメージを広げながら、自分 の課題がたてられたか。 これからの活動日や時間を知 らせ、活動の見通しがもてる ようにする。 実施可能な計画になっている か、児童との話し合いの中で 助言する。 教えてもらう場合の相手への 挨拶やお願いの仕方の例を用 意しておき、児童が自分で連 絡できるようにする。 計画だけでなく、活動の準備も しておく。 活動が見通せるような計画が 立てられたか。</p>	クラスごと   学年一斉   グループ
活 動	(1回目の活 動) 11 / 27  (2回目の 活動) 11 / 29	<p>(5) 『さあ、調べるぞ、やってみ るぞ。』 グループごとに活動する。 ・湿地やふれあいの里などで、生 き物や植物を調べる。 ・名物といわれる食べ物の作り方 を調べてつくる。 ・有名人や名所について詳しく調 べる。 ・特産物について調べる。 ・東川の源流や砂川堀について調 べる。 ・神社や史跡など古いものについ て調べる。 ・早稲田大学や、芸術高校を調べ る。</p>	<p>活動への意欲付けをする。 活動場所が広がるので、複数 の教師や支援ボランティアで 対応し、児童の安全につとめ る。 活動が行き詰まっている児童 には、もう一度計画を確認す るよう助言したり、相談に乗 ったりする。 教えてもらう場合の挨拶、何 かあったときの対処に仕方、帰 校時刻など確認する。 計画に沿って、課題解決のため に、進んで活動しているか。</p>	グループ

す る ？  (11)	1 2 / 1	( 6 ) 『計画を見直そう』 2回の活動の経過を整理する。 ・どこで何をして、どんな記録をしたか。 ・3回目の活動の予定は、何か。 活動の経過を発表し合う。 ・3グループごとに、整理したことを発表し合い、聞き手から感想や意見を言ってもらい、3回目の活動の参考にする。 3回目の活動の計画を見直す。 ・みんなからの意見をもとに、もう一度計画を見直す。	自分たちの活動について、成果や今後の予定を確認できるようにする。  3グループの組み合わせは教師が考える。 課題の一部修正が必要なグループには、修正してもいいことを伝える。 思うように活動が進んでいないグループには、3回目の活動について助言する。 1,2回の活動から3回目の活動計画の見直しができたか。	グループ  3グループごと  グループ
	1 2 / 5	( 7 ) 『最後の活動だ。やり残したことはないかな。』 グループごとに活動する。	課題解決のために進んで活動しているか。	グループ
ま と め る (4)	1 2 / 7  1 2 / 1 1	( 8 ) 『活動したことをまとめよう』 発表会に向けて、調べたことや体験したことをまとめる。 ・どんな発表の仕方にするか考えてまとめる。 ( 模造紙にまとめる・紙芝居・図鑑づくり・新聞作り・試食コーナー・体験コーナーなど ) 発表会の練習をする。	分かりやすいまとめ方や効果的な発表の仕方について助言する。 活動したことを工夫してまとめようとしている。	グループ  グループ

発信する	12 / 14	(9) 『みんな聞いてよ、三ヶ島自まん』 発表会を開いて、自分が見つけた三ヶ島自まんをする。 ・お世話になった人や、家の人も招待する。 ・友達の発表から、たくさんの三ヶ島自まんを知る。	楽しみにしている人がいることを話し、意欲付けをする。 活動内容だけでなく活動して感じたことや考えたことも発表できるようにする。 発表の仕方、聞き方について助言する。 活動内容や考えを分かりやすく発表しようとしているか。 友達の発表から、三ヶ島のよさをたくさん知り得たか。	学年一斉
	12 / 15	(10) 『たくさんあったね、三ヶ島自まん』 発表会を通して分かったことをもとに、自分たちができるところを考える。	これから自分たちができそうなことが考えられたか。	クラスごと

## 6 本時の学習活動

### (1) これまでの取り組みの概要

子どもたちは、教頭先生の函館自まんを聞き、名所や名物でなくても地域のよさや特徴が自まんになるのだと理解したようだった。家の人にも三ヶ島のよさを取材した子がいて、お年寄りではなくてはわからない情報を得てきてくれ、ふれるの段階で行った地域探検の範囲が広がった。ちょうどその時、新聞で左ト全の記事が掲載されたこともあって、関心が高まった。

地域探検では、緊張しながら電話をかけたり、初めての人や場所を訪れて挨拶をしたりと子どもたちにとっては、よい経験ができたようだ。地図を見ながら家を探し歩いたことが、冒険をしているようで楽しかったという感想をもった子もいた。米作り農家で稲を一株おみやげにいただいたり、手作りのうどんや団子をごちそうになったりして、三ヶ島で自まんできるものがたくさん見つけられた。

その後、発見メモを掲示して、友達が見つけたものを見せあったが、「僕が見つけたのもいいけど、さんが見つけたのもおもしろそうだな。」「エー、こんなにたくさん自まんするものがあつたんだ。」「そんなにおいしいうどんだったら、私、自分で作って、食べてみたい。」などの声が聞かれ、自分が興味をもってやってみたいことが、うっすらと浮かびつつあるようだ。この後3回の活動を予定しているので、最後まで興味をもって追究できるような課題がたてられるよう、支援していこうと考えている。

### (2) 目標

< 関心・意欲・態度 > 自分のイメージマップをもとに、自分が興味をもったことを追究しようとする。

< 学び方・ものの考え方 > 活動の見通しが立つような課題を決めることができる。

< 自己の生き方 > 自分の思いや願いを課題作りに生かしていくことができるようにする。